

[事例・資料]

## 佐賀県におけるインフルエンザの流行 (2015/16シーズン)

ウイルス課 安藤 克幸 吉武 俊一 島 あかり 角 典子

○佐賀県感染症発生動向調査事業におけるインフルエンザの発生状況調査 (2015/16 シーズン) および集団発生状況調査の概要は以下のとおりであった。

### ○ウイルス検出・分離

2015年10月から2016年3月まで、県内定点医療機関(インフルエンザ・小児科・基幹病原体定点)におけるインフルエンザ様疾患患者(以下、散発事例)42名の鼻・咽頭ぬぐい液と県内の保健福祉事務所管内におけるインフルエンザ集団発生事例(以下、集団事例)4事例16名のうがい液など、計58検体について、インフルエンザウイルスの検出・分離を行った。

### ○ウイルス分離

インフルエンザウイルス分離にはMDCK細胞を用い、分離株の同定は国立感染症研究所から分与された診断用試薬キット、モルモット赤血球を用いたHI試験により行った。

### ○ウイルス遺伝子検出法 (RT-PCR 法等)

- ・鼻咽頭ぬぐい液からのインフルエンザRNA抽出法は、濃縮キットを使用した。
- ・うがい液からのインフルエンザRNA抽出法は、10mlをAmicon Ultra-15で濃縮し容量を0.5ml以下にした後、濃縮キットを使用して抽出した。
- ・インフルエンザウイルスの検出は、国立感染症研究所の病原体検出マニュアルに従ってリアルタイムPCR法およびコンベンショナルRT-PCR法を実施した。

### ○結果

#### 1) インフルエンザ患者の発生状況

##### ①散発事例

佐賀県感染症情報センターによる2015/16シーズンのインフルエンザ患者報告数は図1のとおり、ピークの時期は過去3シーズンよりやや遅く、2月中旬だった。

##### ②集団事例 (図1、表1)

佐賀県インフルエンザ学級等閉鎖情報による2015/16シーズンの集団発生は、表1のとおりであった。

[事例・資料]

図1 2015/16シーズンにおけるインフルエンザ患者発生状況

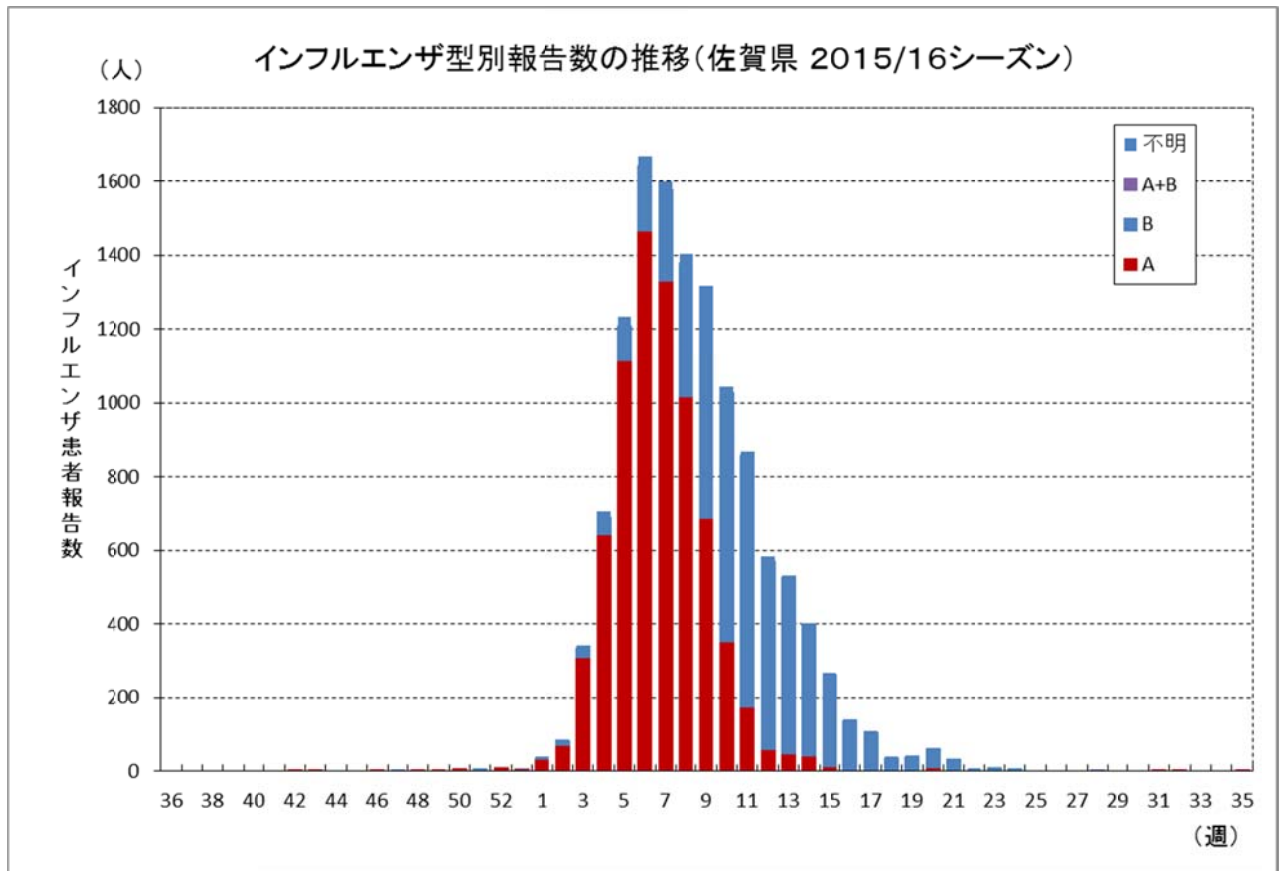


表1 インフルエンザ集団発生施設別発生状況

施設	臨時休業数	患者数	措置		
			休校	学年閉鎖	学級閉鎖
幼稚園・保育園	24	219	0	1	23
小学校	141	1504	0	41	100
中学校	27	306	0	10	17
高等学校	2	55	0	1	1
短期・大学、他	2	12	0	2	0
計	196	2096	0	55	141

[事例・資料]

2) ウイルス検出状況

① 散発事例における検出状況 (表2)

表2 2015/16 シーズンにおけるインフルエンザウイルス検出状況

		2015年 9月				10月				11月				12月	
週		36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
報告数		0	0	0	0	0	0	4	3	0	0	3	5	2	5
定点当たり患者発生数 (人/定点)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.08	0.00	0.00	0.08	0.13	0.05	0.13
検出数計												1			
内 訳	AH1pdm09											1			
	AH3亜型														
	B亜型														

2016年 1月				2月				3月				4月							
50	51	52	53	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
8	4	10	8	38	85	342	707	1235	1670	1599	1405	1319	1043	869	583	533	404	266	139
0.21	0.10	0.26	0.21	0.97	2.18	8.77	18.13	31.67	42.82	41.00	36.03	33.82	26.74	22.28	14.95	13.67	10.36	6.82	3.56
			1	3	1	21	5	5	2	5	5	4					6	7	3
			1	2	1	18	3	3		4	4	1					3	1	
						2						3							
				1		1	2	2	2	1	1						3	6	3

5月				6月				7月				8月					
17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
107	39	41	61	32	8	9	6	0	0	0	2	0	0	1	2	0	0
2.74	1.00	1.05	1.56	0.82	0.21	0.23	0.15	0.00	0.00	0.00	0.05	0.00	0.00	0.03	0.05	0.00	0.00
3	2	3	3	1	1												
3	2	3	3	1	1												

## [事例・資料]

## ②集団事例におけるウイルス検出状況 (表3)

表3 2015/16シーズンインフルエンザ集団発生事例におけるウイルス検出状況

事例番号		管轄保健 福祉事務所	発生地、施設名	検出・分離数	検体数	型
1	2016.1.18	佐賀中部	佐賀市、小学校	5	5	AH3亜型 (2件) AH1pdm型 (3件)
2	2016.1.19	鳥栖	鳥栖市、小学校	3	3	AH1pdm型
3	2016.1.20	唐津	唐津市、小学校	5	5	AH1pdm型
4	2016.1.27	伊万里	伊万里市、小学校	3	3	AH1pdm型

## ○考察

2015/16 シーズンにおけるインフルエンザの流行は、例年より遅い流行入りだったが、2月中旬をピークとする従来型の冬季流行パターンだった。今後ともインフルエンザウイルスの大流行と各亜型による変異株の出現に備え、ウイルス病原体の迅速な検出と分離および遺伝子的な解析を継続的に実施していくことが重要であると考えられる。